

令和５年度 第１回 大阪市障がい者施策推進協議会
議事要旨

日時：令和５年 10 月 19 日（木）午前 10 時から正午まで

会場：大阪役所 地下 1 階 第 11 共通会議室

【議題 1 次期「障がい者支援計画・障がい福祉計画・障がい児福祉計画」（素案）について】

《 資料 1・2 について説明 》

- ・ 虐待防止の取組について、大阪市は養護者による虐待の通報が全国で一番多い市町村であるため、計画文案は、その実態を踏まえた表現にしなければいけないと思う。
- ・ 区保健福祉センターでは、障がい者虐待の対応を、高齢者虐待と同じ担当部局で行っていることが多いため、障がいの理解に関する研修や障がい者支援機関との連携を充実させる必要がある。
- ・ 相談支援体制に関して、大阪府障がい者自立支援協議会から障がい者相談支援体制の充実・強化に向けた提言が出されており、その内容も計画に反映していただきたい。
- ・ 人権教育・福祉教育の充実に関して、社会福祉協議会を含めて、いろいろな実施主体が福祉教育を推進しているため、地域を巻き込んだ連携・協働による障がいへの理解を深める機会づくりといった内容を明記するのはいかがか。
- ・ 権利擁護の取組について、成年後見制度に対する認知度が低いことが課題であると考えている。市民、当事者に加えて、相談支援機関等の関係団体への周知も必要である。
- ・ 精神科病院や入所施設からの地域移行を進めるうえでは、一人ひとりの個別のニーズにあった支援を行えるグループホームの整備が重要である。
- ・ 一人暮らしの 65 歳を超えた精神障がいのある方も多いため、地域の見守り活動を行うにあたっては、高齢者支援の知識に加えて、障がい者支援の専門性も高める必要がある。
- ・ いろいろ多岐にわたる内容が含まれているので、とにかくわかりやすくしてほしい。質問しないとわからないような文章だと理解や活用ができない。

【議題 2 第 6 期障がい福祉計画・第 2 期障がい児福祉計画の進捗状況について】

《 資料 3・4 について説明 》

- ・ 精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステム構築について、長期入院患者数が減少している理由は自然減ではないのか。精神科病院の長期入院者は高齢化しており、統合失調症の人を受け入れてくれる福祉施設や緩和ケアの場所が少ないように感じる。
- ・ 最近グループホームは増えてきたが、一人暮らしに向けて、サテライト型も増やしていただければと思うが、その現状を教えてほしい。

【議題3 大阪市障がい者施策推進協議会専門部会の活動状況について】

《 資料5について説明 》

(1) 計画策定・推進部会

- ・ 計画には、あまり具体的なことは書けないのは承知しているが、その背景や、計画内容の進捗状況が分からない。それが究極に表れている部分が防災に関することであった。

(2) 地域自立支援協議部会

- ・ 各区から多くの課題が報告されており、ボトムアップされたものについて、その回答をわかりやすく示していければと思う。

(3) 発達障がい者支援部会

- ・ 他市では、子育てをしている発達障がいのある方を、どのようにサポートするかなどといった課題も出されている。このようなことも踏まえながら、施策を展開していただきたい。

(4) 障がい者差別解消支援地域協議部会

- ・ 障がい者差別解消法が改正されて、民間事業者にも合理的配慮の提供が義務化されることから、民間事業者に対する指導を含めて、新しい対応要領について検討を進めている。

(5) 精神障がい者地域生活支援部会

- ・ 精神科病院や診療所の医師から、身体合併症が大きな課題で、内科の医師に協働をお願いしても難しいという声が出ている。単に精神科の地域移行ではなくて、身体合併症に対応する医療機関との連携や協働の必要性が確認された。
- ・ 住まいに関して、居住支援協議会のようなシステムを作る取組ができないかという意見が、当事者、家族、現場の生活支援を行う専門職から出されている。
- ・ 市民向けの講座などで、当事者の人が語り部としてピアサポーターの活動をしている。福祉教育においても、活躍できる場があればいいなと思った。
- ・ 精神科病院の長期入院患者数について、単に数を減らすという問題ではなく、退院の仕方といった質にターゲットを当てた検討が必要だということを部会で確認しています。

【その他】

- ・ 2025年に日本で初めてデフリンピックが開催されるが、あまり知名度が高くない。聞こえない子ども等に夢を与えたいと思って活動をしており、周知等に協力してほしい。
- ・ ピアサポーターに関して、大阪市の現状を教えてほしい。若い人が育っていないのではないかと感じている。